

# 農事組合法人 井土生産組合



## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念, キャッチフレーズ等

- 復興のシンボリック存在としてコミュニケーション再生の場にします。
- 安全で安心な農産物の生産, 顔の見える購買, ブランド化を図ります。
- 若い担い手, 女性の活性で持続的な組合, 収益を確保します。

### (2) 栽培技術の特長

東日本大震災からの農地復旧及びほ場整備が完了し, 約100ha規模の大区画ほ場における大規模土地利用型農業に取り組んでいる。  
 水稲栽培は直播などの省力化技術を積極的に導入している。また, 15haの露地畑はネギ, タマネギなど機械化体系を導入した加工業務向け栽培に取り組んでいる。水稲育苗用ハウスでは隔離床養液栽培によるミニトマトの契約栽培を行うとともにタマネギの乾燥等にも利用している。

### (3) 販売の特長

震災後, 新たに取り組んでいる園芸生産において, JA仙台, 全農みやぎと連携し, 加工業務用野菜を取り扱う実需者等, あらかじめ販売先を確保した上で生産に取り組んでいる。

### (4) 経営組織の特長

津波被害により機械施設を流失した集落内の個別経

営農家15戸が, 協業経営での再建を目指し設立した, 役員8名の農事組合法人である。  
 JA仙台出資法人の第1号である。

### (5) 労務管理の特長

組合員による話し合いを重ね, 経営理念, 将来に向けた経営ビジョンを明確化し, それを役員間で共有している。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

東日本大震災により, 地区の農地は瓦礫で無残な状況だったが, 関係者ほか多くの方々の支援により農地が復旧した。先祖代々受け継がれてきたこの農地を, 「我々の代で荒らすわけにはいかない。あの穀物の実り豊かな大地に戻そう」と15名の有志で平成25年1月に農事組合法人井土生産組合を立ち上げた。

### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過, 法人化後の変化

井土地区の被災前の農家数は73戸だったが, 多くの農家が農業の継続を断念し, 地区外に移転せざるを得なかった。当組合はその方々から大切な農地を預かり, 寂しくなった地域をなんとか守りたいと心を一にして結集した。この組合を井土の復興の旗印として, 井土の名を絶やさぬよう, この地域で人が集まり, 儲かる農業を実践することを経営ビジョンに掲げている。

## 経営のプロフィール

農業地帯	平地農業地域
組織形態	ぐるみ型
エリア	1集落
農地集積率	ほぼ100%

### 経営概要

- ・水稲 (63.5ha : ひとめほれ移植16.2ha, ひとめほれ乾田直播2.2ha, ひとめほれ湛水直播7.9ha, つや姫移植10.2ha, まなむすめ移植7ha, まなむすめ加工用米20ha)
- ・大豆 (転作) (5.9ha)
- ・ネギ (780a)
- ・タマネギ他露地野菜累計 (900a)
- ・ミニトマト (13a)
- ・雪菜他施設野菜累計 (77a)

### 主な施設・機械の保有

- ・トラクター7台 ・田植機4台 ・コンバイン3台
- ・パイプハウス21棟 (5,337㎡)
- ・園芸用機械 (タマネギ移植機他)

### 構成員等

構成員16名 (理事8名), H26にJA仙台が出資し構成員となる。 常時雇用1名, パート10名

### 法人設立年月日

平成25年1月17日

### 認定農業者認定年月日

平成25年5月15日

### 出資金

195万円

### 販売額

8,000万円 (平成27年度)

### 役員名

代表理事: 鈴木 保則

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

- ・東日本大震災農業生産対策交付金
- ・被災地域農業復興総合支援事業
- ・日本政策金融公庫融資 (東日本大震災復興特別貸付)

## 3 今後に向けて

### (1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

- 津波で表土を失った後にほ場整備を実施したため, 農地の生産力(肥沃度)の向上が必要。
- 地区外や全国から若い人が集まるような, 財務体質の強い経営体運営を進める。
- ICTやIoTネットワーク型センサー等の積極的な新技術導入による経営改善を行う。

### (2) 今後に向けての経営戦略

- 地域の賑わいを復活させるため, 収穫祭など人が集まる場の提供を行うとともに, 情報発信に努め, 井土生産物の認知力の向上やファンづくりを積極的に行う。
- 水田85haと畑地15haをフル活用し, 収量や品質向上に努め, 記録を徹底し, 責任のある商品をお客様に届けられるよう全力を尽くす。
- 綿密な生産販売計画を作成し, 実需者と情報交換を行い, ニーズを先取りした生産販売を心がける。
- 若い方々が誇りを持って働けるような労働環境を整備し, 魅力ある経営体をつくりあげる。

(調査: 仙台農業改良普及センター)

## 略図



### 農事組合法人 井土生産組合

〒984-0842 仙台市若林区井土字大分318-1  
 TEL 022-794-7571 (FAX兼用)  
 URL <http://www.idoseisan.net/>  
 E-mail [idoiseisankumiai@rhythm.ocn.ne.jp](mailto:idoiseisankumiai@rhythm.ocn.ne.jp)

### 視察受入条件

詳細はWEBに掲載していますのでご確認ください。

<http://www.idoseisan.net/>  
 尚, 申込はFAXにてお願いします。